

ヴェトナム国立大学ハノイ校および ヴェトナム国立自然科学技術センターと 大阪大学理学研究科との学術交流



海外交流

東 島 清*

Academic Exchange between Vietnam and
Graduate School of Science, Osaka University

Key Words : Vietnam

大阪大学理学研究科では物理学専攻が中心となつてヴェトナムとの学術交流を行っている。物理学科をめぐり受験生は増加の傾向にあり、大阪大学の理系学部に入学者の学力は依然として高い水準を保っている。しかしながら、高等学校で物理を選択する生徒の割合はすでに30%を割っており、ニュートンの力学を全く学ばない両親に育てられた子供達が入学してくる頃には、裾野を削られた山が崩壊のごとく日本の科学が危機に瀕するのは想像に難くない。物理学専攻で、我国の今後の少子化と留学生の在り方について議論し合った結果、ベトナムとの学術協定を結び、留学生を積極的に迎えたいと考えるに至った。商都大阪はこれまで歴史的にアジアへの窓口であったこと、南蛮貿易の昔、特に堺の商人を中心にしてベトナムとの貿易を盛んに行い、ホイアンの旧日本人町がユネスコによって世界文化遺産に指定されたことも刺激となった。

物理学の分野では、これまで仁科記念財団の援助により10名を越えるベトナムの若手物理学研究者を日本に招聘してきた。その10年間におよぶ努力が実り優秀な研究者が育ってきており、物理学の様々な分野で有意義な研究協力が可能となっている。

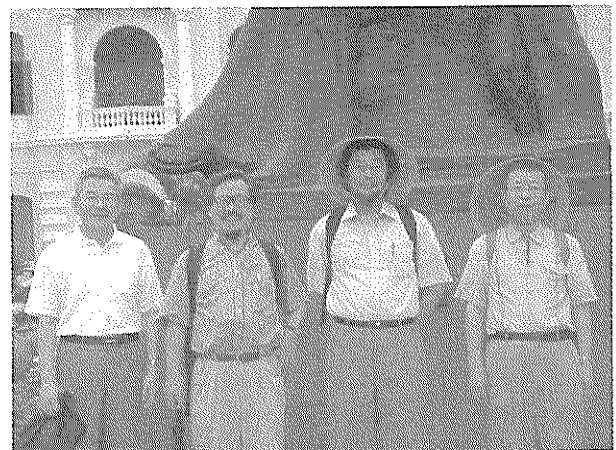
平成12年6月に当時の物理学専攻長大坪久夫教授を団長として、大貫惇陸教授、東島清教授、及び数年前にアジアの若手研究者を集めてセミナーを開催

した経験のある産業科学研究所の吉田博教授、播磨尚朝助教授(両氏とも大学院理学研究科の協力教官)の5名がヴェトナムを訪問して学術交流の準備を行った。訪問団は、ヴェトナム国立大学ホーチミンシティ校(Vietnam National University-Ho Chi Minh City)理学部(The University of Natural Sciences)、ヴェトナム国立大学ハノイ校(Vietnam National University, Hanoi)理学部(The Hanoi University of Science)、ダナン大学(University of Danang)、ベトナム国立自然科学技術センター(Vietnam National Centre for Natural Science and Technology)の物理学研究所(Institute of Physics)の3大学1国立研究所を訪れ学術交流について話し合った。帰国後、ヴェトナム国立大学ハノイ校の理学部と大阪大学大学院理学研究科の間の学術交流協定を締結した。

ヴェトナム国立大学ハノイ校理学部(The Hanoi University of Science)には、710名の教員がおり、その内訳は教授36名、助教授124名、学位取得の教官301名、その他である。物理学部には約120名の教員が在籍している。学生総数は13,000名で、11,000



* Kiyoshi HIGASHIJIMA
1948年1月生
1974年京都大学・大学院理学研究科・博士課程中退
現在、大阪大学・大学院理学研究科・物理学専攻、教授、理学博士、素粒子論
TEL 06-6850-5731
FAX 06-6850-5379
E-Mail higashij@phys.sci.osaka-u.ac.jp



ハノイにて(左より大坪、吉田、東島、大貫)

名が学部学生、500名が大学院学生、そのほか英才教育のための高校生も多数在籍している。副学長 (Vice Rector) の Nguyen Ngoc Long 助教授をはじめ物理学科のスタッフの方々とお互いの現状について話し合った。実験施設を案内して下さったのはオランダのアムステルダム大学で長年磁性の研究をされた方で、大貫教授がその研究活動を知っていたので、話はスムーズに進行した。最先端の実験装置が導入されており研究に勢いを感じられた。その後、ヴェトナム国立大学ハノイ校理学部からは、平成13年度には Phung Quoc Bao 教授、平成14年度には Nguyen Hoang Luong 助教授と Nguyen Thi Thuc Hien 物理学部長が大阪大学を訪問された。特に Luong 助教授は日本学術振興会の援助を得て大貫研究室に3ヶ月滞在して共同研究を行い、その成果は今年10月にヴェトナムで行われる磁性の国際会議で発表することになっている。

ベトナム国立自然科学技術センターの物理学研究所1969年に設立され、研究員は総数140名であり、その内訳は9名の教授と16名の助教授及び60名の博士の学位取得研究員、その他から構成される。理論物理、核物理、資源工学、環境工学、量子エレクトロニクス、電子工学などの部門からなる。理論物理部門のグループリーダー Doan Nhat Quang 教授が中心となって対応して下さった。また、素粒子理論部門の Hoang Ngoc Long 助教授は仁科記念財団の招きで訪日されたこともあり、今後も互いに協力していくことを確認し合った。ここでも訪問の主旨を説明した後、研究所内の核物理、資源工学、エレクトロニクス部門を見学した。核物理部門では昔のソ連製の装置が放射線教育に活路を見出しているように思われた。資源工学部門では、コンピューターグラフィックによるベトナムの地下資源を見せていただいた。量子エレクトロニクス部門の Nguyen Dai Hung 教授は来日されたこともあり、極めて活発な方であった。レーザーの開発とそれを用いた物性研究を行っていて、ちょうど木下修一教授に近い研究分野の方であった。その後、平成13年にベトナム国

立自然科学技術センターの物質科学研究所長の Pham Hoang Khoi 教授が大阪大学を訪問された。メゾスコピックの理論家である Quang 教授は平成13年と14年に学術振興会の招きで訪日され、現在も齋藤基彦教授の研究室に滞在されている。また、Long 助教授も平成14年3月に大阪大学を訪問され研究交流を行った。

大阪大学からも物理学専攻の杉山清寛助教授が平成13年と14年度にヴェトナム国立大学ハノイ校理学部、ベトナム国立自然科学技術センター物理学研究所、ヴェトナム国立大学ホーチミンシティ校を訪れ研究交流を行った。また前述のように、本年10月にはハノイ近郊で磁性に関する国際会議が行われ、大阪大学からも多数出席し研究発表を行うことになっている。また、ヴェトナムからの留学生に関しても、平成14年度に物理学専攻の齋藤基彦教授の下で Dinh Van An 氏が博士号を取得し、14年10月から物理学専攻の野末泰夫教授の下にヴェトナム国立大学ハノイ校理学部から Truong Cong Duan 氏が国費留学生として来日する事になっている。Duan 氏はヴェトナムの英才教育統一試験で2等賞になった秀才で、日本人学生にも良い刺激を与えてくれるものと期待している。もう一人優秀な学生を呼ぶことができるように努力しているところである。

独自の資金的な裏付けが無いことがこのような国際的な交流を行う上で障害となっているため、物理学の分野で日本学術振興会の拠点大学方式による学術交流に申し込んでいるが、大阪大学大学院工学研究科とヴェトナム国立大学ハノイ校の間で地球環境総合学に関する拠点大学方式による学術交流が既に行われており、なかなか難しいようである。ヴェトナム国立大学ハノイ校を訪問してはじめて工学研究科の藤田教授が既に交流をはじめておられることを知り、その先見の明に感銘を受けた。同じくヴェトナム国立大学ハノイ校理学部と学術交流協定を結んでおられる基礎工学研究科とも連携をとりながら交流を続けてゆくことが、ヴェトナム及び日本両国の未来につながるものと期待している。

